Impact of Baseline Angiographic Complexities Determined by Coronary Artery Bypass Grafting SYNTAX Score on the Prediction of Outcome After Percutaneous Coronary Intervention

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2018-09-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00052094

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

論文内容の要旨及び審査結果の要旨

医薬保博
受付番号　甲第１３８号　　氏名　中橋　卓也

論文審査担当者　主査　稲葉　英夫

副査　竹村　博文

山本　靖彦

学位請求論文

題　　名　Impact of Baseline Angiographic Complexities Determined by Coronary Artery Bypass Grafting SYNTAX Score on the Prediction of Outcome After Percutaneous Coronary Intervention

冠動脈バイパス術後の経皮的冠動脈インターベンションにおいて冠動脈硬化の形態的複雑性が予後に与える影響

掲載雑誌名　American Journal of Cardiology　第 118 巻第 7 号　974 頁～979 頁
平成 28 年 10 月掲載

本研究の目的は PCI 症例において、CABG 後の残存 SYNTAX スコアは予後予測に有用かどうか評価することである。PCI を受けた症例のうち、CABG を既往に有する連続 272 症例を研究対象としている。多変量解析では、心血管死亡に影響する独立規定因子として高齢、低心機能、維持透析、末梢動脈疾患、CABG 後の残存 SYNTAX スコア高値を同定している。多変量解析にて同定された予後規定因子を評価項目に含めた複合型スコアでは、従来型スコアに比べて心血管死亡の予測診断能が有意に向上することを示している。これらの結果は、CABG 後の残存 SYNTAX スコアは臨床指標と組み合わせることで予後予測精査の向上に寄与することが示唆しており、この新しい指標を Composite CABG-SYNTAX スコアと著者らは名付けている。
本論文は以下のような学位論文に値する新知見を示している。
（1）高齢化が進行し、複数の臓器機能障害を併発または合併している本邦のＣＡＢＧ術後患者では、推定心筋虚血領域を点数化する指標である SYNTAX スコアのみでは、予後予測の精度は高くないことを示し、臨床転機には高齢、低心機能、維持透析、末梢動脈疾患、CABG 後の残存 SYNTAX スコア高値が有意に関連することを示した。
（2）新たに作成した Composite CABG-SYNTAX スコアの心血管死亡の予測における優位性を明確に示した。
（3）Composite CABG-SYNTAX スコアは、これまでの複合型リスクモデルと比較しても、簡便で有用な指標と判断される。

以上から、本論文は学位に値するものと判断した。